

事務事業マネージメントシート

作成日 平成30年 05月 12日

事務事業名	教育国際交流事業				担当	教育委員会 学校教育課 指導係			
政策名	B 学びと歴史・文化が豊かな心を育むまちづくり				増補版施策名				
施策名	2 小・中学校の教育の充実				<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業				
関連個別計画					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ			
法令根拠						<input type="checkbox"/> 単年度継返 (開始年度 H元 年度～)			
予算科目	1.一般会計	10.教育費	3.中学校費	2.教育振興費	<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度～ 年度)				
事業概要	國際交流事業の一環として、市内6中学校がそれぞれ海外の中学校と姉妹校を結び、国際理解と友好親善に資するために相互交流を実施している。合併により、二宮地区の中学校3校について、受け入れを伴わない派遣事業として引き継いだが、今後、相互交流による姉妹校交流を予定している。 ・真岡東中学校：アメリカグレンドーラ市ガーディー中学校（平成2年11月9日姉妹校締結）・真岡西中学校：台湾斗六市正心高級中学（平成5年7月23日姉妹校締結） ・大内中学校：中国北京市北京第5中学（平成10年11月12日姉妹校締結）・真岡中学校：オーストラリアオーストラリンド校（平成15年10月30日姉妹校締結） ・中村中学校：アメリカサンドバーグ中学校（平成18年11月3日姉妹校締結）・山前中学校：アメリカボルチモア市サドブルック・マグネット中学校（平成19年11月9日姉妹校締結） ・長沼・久下田、物部中学校は、姉妹校による相互交流へ向けて検討中である。								

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段(主な活動) 29年度実績 派遣校 ・真岡中 11/9～11/18 ・真岡東中 10/27～11/4 ・真岡西中 11/2～11/8 ・大内中 9/11～9/15 ・山前中 11/9～11/16 ・長沼中、久下田中、物部中 10/31～11/6 受入校 ・中村中 11/3～11/11 30年度計画 ・真岡中...オーストラリンド校(受入)・真岡東中...ガード中(受入) ・真岡西中...正心高級中学(受入)・大内中...北京第五中(受入) ・山前中...サドブルック・マグネット中(受入)・中村中...サンダバーグ中(派遣) ・長沼、久下田、物部中...派遣 ・大内中 山前中においては、姉妹校からの派遣ができないとの連絡 ②対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等 中学校生徒 ③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 外国との交流を深め、民族、文化を理解してもらう。 ④結果(どんな結果(上位施策)に結びつけるのか) 国際化に対応できる人づくり	⑤活動指標(事務事業の活動量を表す指標)の推移							
	名称	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(見込)	
	ア：派遣人数	人	63	110	50	129	50	
	イ：受入人数	人	76	16	103	16	100	
	ウ：姉妹校締結数	校	6	6	6	6	6	
	エ							
	オ							
	⑥対象指標(対象の大きさを表す指標)の推移	名称	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(見込)
	ア：中学校生徒数	人	2,332	2,363	2,368	2,342	2,319	
	イ							
	ウ							
	エ							
	オ							
	⑦成果指標(対象における意図された対象の程度)の推移	名称	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(見込)
	ア：国際理解が高まった生徒数	人	2,332	2,363	2,368	2,342	2,319	
	イ							
	ウ							
	エ							
	オ							
	⑧上位成果指標(結果の達成度を表す指標)の推移	名称	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(見込)
	ア：国際感覚が高まった生徒の割合	%	100	100	100	100	100	
	イ							
	ウ							
	エ							
	オ							

(2) 総事業費の推移		単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(見込)
投 入 量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0
	財源内訳	県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0
		一般財源	千円	10,290	9,460	11,035	11,127
	事業費計(A)		千円	10,290	9,460	11,035	11,127
	人件費	正規職員従事人數	人	1	1	1	1
		延べ業務時間	時間	300	300	300	300
		人件費計(B)	千円	1,266	1,257	1,246	1,245
	トータルコスト(A)+(B)		千円	11,556	10,717	12,281	12,372

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等	平成元年より、姉妹都市交流事業の一環として開始し、翌年には、真岡東中学校が、姉妹都市であるアメリカグレンドーラ市のガード中学校と姉妹校を締結する。
②事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?	国際理解教育がますます重視されてきた。生徒の国際理解度も高まっている。
③この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	二宮町との合併により、長沼・久下田・物部中学校に姉妹校を選定し、国際交流に努めるように要望されている。 平成29年度に、生徒、保護者、教員へのアンケートを実施。今後も継続して欲しいとの意見が多く出てきたが、派遣に関しては、補助して欲しいという保護者からの意見が多い。

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか? ・意図することが結果（上位施策）に結びついているか?	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 語学力と異文化理解、国際感覚を養うことは、国際理解教育の推進という市の施策に結びつく。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか? ・税金を投入して達成する目的か?	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 生徒の国際感覚を身につけさせることは、市の施策である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか? ・意図を限定・拡充すべきか?	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 市内の中学生が対象であり、国際交流を目的にしているので適切である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか? ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか? ・何が原因で成果向上が期待できないのか?	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 長沼、久下田、物部中に姉妹校が締結されることにより、さらなる国際理解と友好親善を図ることができる。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 教育国際交流は、生徒の国際理解教育の一環であり、生徒の国際感覚を身につけさせる機会が低下する。派遣・受入の活動を核として、ふだんの教育活動の中でも交流を積極的に図れるよう各学校の特色を生かして取り組めば、より生徒全員に目的が反映される。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか?	<input type="checkbox"/> 類似事業がある（類似の事務事業名を記載） <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか?	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか? (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 教育国際交流に必要な交付金である。
	⑧人件費（延べ業務時間）の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか? ・成果を下げずにより正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 教育国際交流を推進する上で、必要最小限の人件費で対応している。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか? ・受益者負担が公正・公平になっているか?	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 渡航費用など、個人に関する費用等については自己負担が原則である。 その他の経費については、市の施策として教育国際交流を推進する立場から市で負担している。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性（改革案・実行計画）	<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し（ <input type="checkbox"/> ：目的妥当性 <input type="checkbox"/> ：有効性 <input type="checkbox"/> ：効率性 <input type="checkbox"/> ：公平性） <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？	山前中学校においては、姉妹校の受入ができず、相互交流ができない状況である。また、大内中における北京第5中分校との交流では、国の情勢に左右されることがある。また、二宮地区3校の姉妹校締結が課題となっており、関係機関との連携を図りたい。	

4. 事務事業の2次評価結果（事業の総括と事業の方向性）

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合	<input type="checkbox"/> 記述説明不足（説明責任不充分） <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果
(2) 2次評価者としての評価結果	①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性	<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）	
(4) その他2次評価会議で指摘された事項		